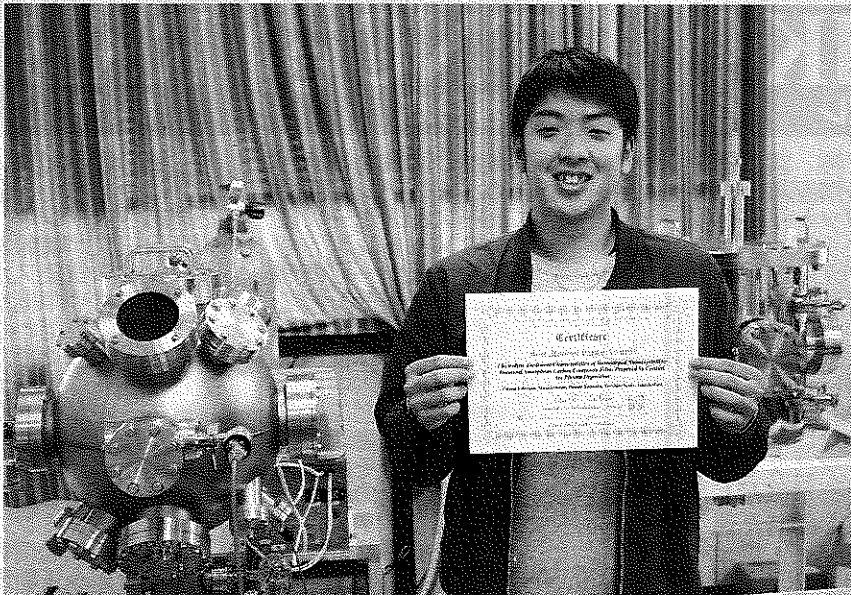


国際学会発表で入賞

竹永さん 先輩の研究引き継ぐ

他分野に挑戦
1年間で成果
有害物質分解実験



国際学会発表で入賞した竹永さん

大牟田市東萩尾町の有明工業高等専門学校（高橋薫校長）専攻科2年生の竹永拓海さんが国際学会の発表で入賞した。先輩の研究を引き継ぎ取り組んだ、ダイヤモンド系電極を用いた有害物質分解実験の成果を発表したもの。これからも研究を深めていきたいと意欲を見せている。

竹永さんは同科1年生だった3月下旬に北九州市内であった、産業応用工学会主催の学会「International Conference on Industrial Application Engineering 2017」(ICIAE2017)の英語による口頭発表で、「Best Student Paper Award」を受賞。

ICIAE2017にはアジア、ヨーロッパの9の国と地域から大学や専攻科員、大学生、大学院生、高専生らが参加。論文審査を通じた70件の発表があり、同賞は5件に贈られた。水処理研究のためのダイヤモンド系電極は高温の状態でガスも使って作られていたが、同高専では通常の室温、真空状態の下で作

り、エタノールなど有機溶剤分解ができた。研究に携わり3月に卒業した学生が2年前に他の学会で発表し、表彰を受けていた。竹永さんはさらに有害物質「フアラニトロフェノール」の分解にも成功。従来型と比べて安価な材料や装置で、より簡単に製作できる同高専の電極の有効性を示した。

本科では電子情報工学科でネットワークを学んでいたが、電気・電子材料研究の話聞いて興味を持ち、専攻科で原武嗣准教授の研究室へ。ICIAE2017を目標に研究を開始。本科と全く違う分野なのでゼロからのスタート。用語、機器の使い方覚えるところから始めた。夏休み、1月から2月にかけては毎日のように研究、英語での発表練習を続けるなど本番に備えた。

「発表後の質疑応答が難しく、入賞できる自信はなかったが、結果を出せてうれしい。原先生や研究の道

を開いたり、手伝ってくれた先輩に感謝しています。もっと研究を深めたい」と話す。

「1年で英語の発表までは難しいかと思っていました。が、やる気がありよく頑張っていました」と原准教授もたたえていた。

(高本 明)

有明新報
2017年4月21日(金)
7面